

シラバス

科目名		テーピングⅠ		担 当 者 名		高橋 聖	
学 科		スポーツビジネス科 スポーツトレーナーコース		授 業 方 法		実習	
認定単位 開講学年		1単位 1学年	開 講 期 必・選	選択		授 業 時 間 数	36時間
授業目的		テーピングの専門的知識を身に付けた人材になること。					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)		テーピングの基本を学び、実施することが可能になること、また実際にスポーツ現場を仮定とし、条件に合わせて応用的なテーピングが実施することが可能になる。					
授業概要		初めに身体構造及び関節について、テーピングの基本を講義にて学ぶ。その後各部位のテーピングについて講義と実技を合わせながら行う。また各部位のテーピングでは、関節構造・怪我発生機序・損傷部位・状態の評価方法・基本的及び応用的テーピングの流れで実施する。					
授 業 計 画 表		授 業 内 容			授 業 内 容		
	1	オリエンテーション グループ編成		19	応用テーピングについて(講義)(1)		
	2	オリエンテーション グループ編成		20	応用テーピングについて(講義)(2)		
	3	運動器の解剖と機能について(1)		21	今までのまとめ復習(1)		
	4	運動器の解剖と機能について(2)		22	今までのまとめ復習(2)		
	5	テーピングについて(1)		23	テーピングの基本(実技)(1)		
	6	テーピングについて(2)		24	テーピングの基本(実技)(2)		
	7	テーピングの基本(講義)(1)		25	テーピングについて(実技)(1) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む		
	8	テーピングの基本(講義)(2)		26	テーピングについて(実技)(2) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む		
	9	足関節テーピングについて(講義)(1)		27	テーピングについて(実技)(3) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む		
	10	足関節テーピングについて(講義)(2)		28	テーピングについて(実技)(4) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む		
	11	膝関節テーピングについて(講義)(1)		29	テーピングについて(実技)(5) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む		
	12	膝関節テーピングについて(講義)(2)		30	テーピングについて(実技)(6) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む		
	13	肩関節テーピングについて(講義)(1)		31	筆記試験		
	14	肩関節テーピングについて(講義)(2)		32	テーピング復習・練習(1)		
	15	肘関節テーピングについて(講義)(1)		33	テーピング復習・練習(2)		
	16	肘関節テーピングについて(講義)(2)		34	実技試験(1)		
	17	手関節テーピングについて(講義)(1)		35	実技試験(2)		
	18	手関節テーピングについて(講義)(2)		36	まとめ		
成績割合		テスト	30%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付		
		学習態度・出席率	60%				
		レポート	10%	成績評価	S90～100点 A80～89点 B70～79点 C60～69点 D59点以下(不合格)		
		合計	100%				
P/R/A/G割合		P<課題解決型学習>40% R<実働実践型学習>20% A<主体的参加型学習>40% G<海外体感型学習>0%					
講師プロフィール		柔道整復師・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーとしてスポーツ現場や整骨院などで、サッカー・野球・空手・バレー・プロソフトボール・プロ格闘家・テニス・ゴルフ・卓球・バレエ・フィギュアスケートなど幅広い競技で、テーピングを始め、トレーニングやストレッチ・治療のサポートをしています。					

シラバス

科目名		スイミング指導Ⅰ		担 当 者 名		加藤 健志	
学 科		スポーツビジネス科 スポーツトレーナーコース		授 業 方 法		実習	
認定単位 開講学年		2単位 1学年	開 講 期 必・選	選択		授 業 時 間 数	72時間
授業目的		水泳種目に於いて、健康維持増進として適切な指導ができる知識を得る					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)		豊富な知識を得て、積極的に活動できる優秀な指導者を養成し、世界で活躍できる競技スポーツ選手から心身の健康増進できる優秀な指導者の育成を目的として行う。					
授業概要		①プールサイドでのドライランドトレーニング(動きづくり)を行ってから、入水し実践を行う。 ②知識・理論に関しては、グループワークを含んだ座学を行う。					
授 業 計 画 表		授 業 内 容			授 業 内 容		
	1	オリエンテーション1		19	技術トレーニングのねらい		
	2	オリエンテーション2		20	技術トレーニングのねらい		
	3	オリエンテーション3		21	技術トレーニングのねらい		
	4	トレーニング理論		22	技術トレーニングの課題		
	5	トレーニング理論		23	技術トレーニングの課題		
	6	トレーニング理論		24	技術トレーニングの課題		
	7	水泳の体カトレーニング法		25	技術トレーニングの課題		
	8	水泳の体カトレーニング法		26	技術トレーニングの実践		
	9	水泳の体カトレーニング法		27	技術トレーニングの実践		
	10	水泳の体カトレーニング法		28	技術トレーニングの実践		
	11	水泳の体カトレーニング法		29	技術トレーニングの実践		
	12	水泳のメンタルトレーニング		30	水泳競技基礎・ルール		
	13	水泳のメンタルトレーニング		31	水泳競技基礎・ルール		
	14	水泳のメンタルトレーニング		32	後期実技試験 対策		
	15	水泳のメンタルトレーニング		33	後期実技試験 100m個人メドレー		
	16	テスト 対策		34	確認テスト・まとめ1		
	17	泳力テスト		35	確認テスト・まとめ2		
	18	テストの振り返り		36	確認テスト・まとめ3		
成績割合		テスト	30	学習FB方法	前期・後期 成績表送付		
		学習態度・出席率	30				
		レポート	40	成績評価	出席率80%以上 S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格		
		合計	100%				
P/R/A/G割合		P≪課題解決型学習≫20% R≪実働実践型学習≫40% A≪主体的参加型学習≫20% G≪海外体感型学習≫20%					
講師プロフィール		JOC競泳オリンピック強化コーチ/日本水泳連盟 競泳強化コーチ 日本の水泳界を牽引されている講師が担当している。					

シラバス

科目名		救急処置法Ⅰ		担 当 者 名		石井 英一	
学 科		スポーツビジネス科 スポーツトレーナーコース		授 業 方 法		実習	
認定単位 開講学年		1単位 1学年	開 講 期 必・選	選択		授 業 時 間 数	36時間
授業目的		質の高い心肺蘇生とAEDの習得を目指し、傷病者の「社会復帰」をキーワードに「救命の連鎖」が途切れることのない社会を目指します。					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)		日本ライフセービング協会の「BLS資格」取得を目指します。					
授業概要		心肺蘇生法はじめとする応急手当に対する正しい理解、各種応急手当の実施要領について実施していく。					
授 業 計 画 表		授 業 内 容			授 業 内 容		
	1	ガイダンス		19	心停止の分類と心室細動という不整脈(2)		
	2	救命の連鎖(1)		20	心停止の分類と心室細動という不整脈(3)		
	3	救命の連鎖(2)		21	心室細動の治療とAEDの必要性(1)		
	4	日本の実状(1)		22	心室細動の治療とAEDの必要性(2)		
	5	日本の実状(2)		23	心室細動の治療とAEDの必要性(3)		
	6	呼吸・循環のしくみ(1)		24	心肺蘇生の実施手順(1)		
	7	呼吸・循環のしくみ(2)		25	心肺蘇生の実施手順(2)		
	8	呼吸・循環のしくみ(3)		26	心肺蘇生の実施手順(3)		
	9	血液の成分と役割(1)		27	気道異物挿入除去(1)		
	10	血液の成分と役割(2)		28	気道異物挿入除去(2)		
	11	血液の成分と役割(3)		29	気道異物挿入除去(3)		
	12	心肺蘇生の理論(1)		30	溺水事故での心肺蘇生(1)		
	13	心肺蘇生の理論(2)		31	溺水事故での心肺蘇生(2)		
	14	心肺蘇生の理論(3)		32	溺水事故での心肺蘇生(3)		
	15	胸骨圧迫の重要性(1)		33	実技テスト		
	16	胸骨圧迫の重要性(2)		34	学科テスト		
	17	胸骨圧迫の重要性(3)		35	振り返り		
	18	心停止の分類と心室細動という不整脈(1)		36	まとめ		
成績割合		テスト		30%	学習FB方法	前期・後期 成績表の送付	
		学習態度・出席率		50%			
		レポート		20%	成績評価	出席率80%以上 S:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格	
		合計		100%			
P/R/A/G割合		P≪課題解決型学習≫20 R≪実働実践型学習≫40 A≪主体的参加型学習≫30 G≪海外体感型学習≫10					
講師プロフィール		公益財団法人 日本ライフセービング協会指導員 日本赤十字社 指導員					

シラバス

科目名		機能解剖学		担 当 者 名		町田 秀樹	
学 科		スポーツビジネス科 スポーツトレーナーコース		授業方法		講義	
認定単位 開講学年		2単位 1学年	開 講 期 必・選	選択		授 業 時 間 数	36時間
授業目的		運動の指導者として必要な知識を得る。					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)		骨や筋肉の名称を覚えるとともに、関節の動きや筋肉の特徴を知ること、運動や健康の指導の基礎を築く。また、自分で正しく学び続けることができる基礎を築く。					
授業概要		解剖学の基礎					
授 業 計 画 表		授業内容			授業内容		
	1	機能解剖学の導入		19	脳・神経系の導入		
	2	骨・関節の種類と動き		20	神経組織		
	3	骨格の名称①/頭蓋骨		21	神経筋接合部		
	4	骨の名称②/脊柱		22	シナプスと神経伝達物質		
	5	骨の名称③/腕・脚・手・足など		23	交感神経と副交感神経		
	6	筋肉について導入		24	脳神経系		
	7	筋組織・筋肉の形状と特徴		25	大脳・間脳		
	8	骨格筋の微細構造		26	脳幹・小脳・脊髄		
	9	骨格筋の名称①/前面		27	髄膜		
	10	骨格筋の名称②/前面・後面		28	上行伝導路		
	11	骨格筋の名称③/後面		29	下行伝導路		
	12	骨格筋の名称④/肩のローテーターカフ		30	脊髄反射		
	13	小さな骨・骨格筋の名称		31	脊髄神経系支配領域について		
	14	骨格筋・起始停止		32	伸張性反射について		
	15	骨格筋の収縮と関節の動き		33	復習		
	16	復習		34	復習・まとめ		
	17	復習・まとめ		35	確認テスト		
	18	確認テスト		36	前期・後期の総合まとめ		
成績割合		テスト		70%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
		学習態度・出席率		30%			
		レポート			成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89点 B70~79点 C 60~69点 D59点以下は不合格	
		合計		100%			
P/R/A/G割合		P≪課題解決型学習≫20 R≪実働実践型学習≫70 A≪主体的参加型学習≫10 G≪海外体感型学習≫0					
講師プロフィール		2002年より整体業の店を開業しています。ほとんどの痛みは1度の施術でとるという評判があります。著書に「できる人はなぜ、そこまで姿勢にこだわるのか」が翔泳社から2015年3月に出版されています。					

シラバス

科 目 名		テーピング I		担 当 者 名		高橋 聖	
学 科		スポーツビジネス科 スポーツインストラクターコース		授 業 方 法		実習	
認定単位	1単位	開 講 期			授 業 時 間 数	36時間	
開講学年	1学年	必・選	選択				
授業目的		テーピングの専門的知識を身に付けた人材になること。					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)		テーピングの基本を学び、実施することが可能になること、また実際にスポーツ現場を仮定とし、条件に合わせて応用的なテーピングが実施することが可能になる。					
授業概要		初めに身体構造及び関節について、テーピングの基本を講義にて学ぶ。その後各部位のテーピングについて講義と実技を合わせながら行う。また各部位のテーピングでは、関節構造・怪我発生機序・損傷部位・状態の評価方法・基本的及び応用的テーピングの流れで実施する。					
授 業 計 画 表		授 業 内 容			授 業 内 容		
	1	オリエンテーション グループ編成		19	応用テーピングについて(講義)(1)		
	2	オリエンテーション グループ編成		20	応用テーピングについて(講義)(2)		
	3	運動器の解剖と機能について(1)		21	今までのまとめ復習(1)		
	4	運動器の解剖と機能について(2)		22	今までのまとめ復習(2)		
	5	テーピングについて(1)		23	テーピングの基本(実技)(1)		
	6	テーピングについて(2)		24	テーピングの基本(実技)(2)		
	7	テーピングの基本(講義)(1)		25	テーピングについて(実技)(1) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む		
	8	テーピングの基本(講義)(2)		26	テーピングについて(実技)(2) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む		
	9	足関節テーピングについて(講義)(1)		27	テーピングについて(実技)(3) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む		
	10	足関節テーピングについて(講義)(2)		28	テーピングについて(実技)(4) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む		
	11	膝関節テーピングについて(講義)(1)		29	テーピングについて(実技)(5) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む		
	12	膝関節テーピングについて(講義)(2)		30	テーピングについて(実技)(6) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む		
	13	肩関節テーピングについて(講義)(1)		31	筆記試験		
	14	肩関節テーピングについて(講義)(2)		32	テーピング復習・練習(1)		
	15	肘関節テーピングについて(講義)(1)		33	テーピング復習・練習(2)		
	16	肘関節テーピングについて(講義)(2)		34	実技試験(1)		
	17	手関節テーピングについて(講義)(1)		35	実技試験(2)		
	18	手関節テーピングについて(講義)(2)		36	まとめ		
成績割合		テスト		30%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
		学習態度・出席率		60%			
		レポート		10%	成績評価	S90～100点 A80～89点 B70～79点 C60～69点 D59点以下(不合格)	
		合計		100%			
P/R/A/G割合		P<課題解決型学習>40% R<実働実践型学習>20% A<主体的参加型学習>40% G<海外体感型学習>0%					
講師プロフィール		柔道整復師・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーとしてスポーツ現場や整骨院などで、サッカー・野球・空手・バレー・ソフトボール・プロ格闘家・テニス・ゴルフ・卓球・バレエ・フィギュアスケートなど幅広い競技で、テーピングを始め、トレーニングやストレッチ・治療のサポートをしています。					

シラバス

科目名		スイミング指導Ⅰ		担 当 者 名		加藤 健志	
学 科		スポーツビジネス科 スポーツインストラクターコース		授 業 方 法		実習	
認定単位	2単位	開 講 期			授 業 時 間 数	72時間	
開講学年	1学年	必・選	選択				
授業目的		水泳種目に於いて、健康維持増進として適切な指導ができる知識を得る					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)		豊富な知識を得て、積極的に活動できる優秀な指導者を養成し、世界で活躍できる競技スポーツ選手から心身の健康増進できる優秀な指導者の育成を目的として行う。					
授業概要		①プールサイドでのドライランドトレーニング(動きづくり)を行ってから、入水し実践を行う。 ②知識・理論に関しては、グループワークを含んだ座学を行う。					
授 業 計 画 表		授 業 内 容			授 業 内 容		
	1	オリエンテーション1		19	技術トレーニングのねらい		
	2	オリエンテーション2		20	技術トレーニングのねらい		
	3	オリエンテーション3		21	技術トレーニングのねらい		
	4	トレーニング理論		22	技術トレーニングの課題		
	5	トレーニング理論		23	技術トレーニングの課題		
	6	トレーニング理論		24	技術トレーニングの課題		
	7	水泳の体カトレーニング法		25	技術トレーニングの課題		
	8	水泳の体カトレーニング法		26	技術トレーニングの実践		
	9	水泳の体カトレーニング法		27	技術トレーニングの実践		
	10	水泳の体カトレーニング法		28	技術トレーニングの実践		
	11	水泳の体カトレーニング法		29	技術トレーニングの実践		
	12	水泳のメンタルトレーニング		30	水泳競技基礎・ルール		
	13	水泳のメンタルトレーニング		31	水泳競技基礎・ルール		
	14	水泳のメンタルトレーニング		32	後期実技試験 対策		
	15	水泳のメンタルトレーニング		33	後期実技試験 100m個人メドレー		
	16	テスト 対策		34	確認テスト・まとめ1		
	17	泳力テスト		35	確認テスト・まとめ2		
	18	テストの振り返り		36	確認テスト・まとめ3		
成績割合		テスト	30	学習FB方法	前期・後期 成績表送付		
		学習態度・出席率	30				
		レポート	40	成績評価	出席率80%以上 S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格		
		合計	100%				
P/R/A/G割合		P≪課題解決型学習≫20% R≪実働実践型学習≫40% A≪主体的参加型学習≫20% G≪海外体感型学習≫20%					
講師プロフィール		JOC競泳オリンピック強化コーチ/日本水泳連盟 競泳強化コーチ 日本の水泳界を牽引されている講師が担当している。					

シラバス

科目名		機能解剖学		担 当 者 名		町田 秀樹	
学 科		スポーツビジネス科 スポーツインストラクターコース		授 業 方 法		講義	
認定単位 開講学年		2単位 1学年	開 講 期 必・選	選択		授 業 時 間 数	36時間
授業目的		運動の指導者として必要な知識を得る。					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)		骨や筋肉の名称を覚えるとともに、関節の動きや筋肉の特徴を知ること、運動や健康の指導の基礎を築く。また、自分で正しく学び続けることができる基礎を築く。					
授業概要		解剖学の基礎					
授 業 計 画 表		授 業 内 容				授 業 内 容	
	1	機能解剖学の導入			19	脳・神経系の導入	
	2	骨・関節の種類と動き			20	神経組織	
	3	骨格の名称①/頭蓋骨			21	神経筋接合部	
	4	骨の名称②/脊柱			22	シナプスと神経伝達物質	
	5	骨の名称③/腕・脚・手・足など			23	交感神経と副交感神経	
	6	筋肉について導入			24	脳神経系	
	7	筋組織・筋肉の形状と特徴			25	大脳・間脳	
	8	骨格筋の微細構造			26	脳幹・小脳・脊髄	
	9	骨格筋の名称①/前面			27	髄膜	
	10	骨格筋の名称②/前面・後面			28	上行伝導路	
	11	骨格筋の名称③/後面			29	下行伝導路	
	12	骨格筋の名称④/肩のローテーターカフ			30	脊髄反射	
	13	小さな骨・骨格筋の名称			31	脊髄神経系支配領域について	
	14	骨格筋・起始停止			32	伸張性反射について	
	15	骨格筋の収縮と関節の動き			33	復習	
	16	復習			34	復習・まとめ	
	17	復習・まとめ			35	確認テスト	
	18	確認テスト			36	前期・後期の総合まとめ	
成績割合		テスト		70%		学習FB方法	前期・後期 成績表送付
		学習態度・出席率		30%			
		レポート				成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89点 B70~79点 C 60~69点 D59点以下は不合格
		合計		100%			
P/R/A/G割合		P≪課題解決型学習≫20 R≪実働実践型学習≫70 A≪主体的参加型学習≫10 G≪海外体感型学習≫0					
講師プロフィール		2002年より整体業の店を開業しています。ほとんどの痛みは1度の施術でとるという評判があります。著書に「できる人はなぜ、そこまで姿勢にこだわるのか」が翔泳社から2015年3月に出版されています。					

シラバス

科目名	救急処置法Ⅰ		担 当 者 名	石井 英一	
学 科	スポーツビジネス科 スポーツインストラクターコース		授業方法	実習	
認定単位 開講学年	1単位 1学年	開 講 期 必・選	選択	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	質の高い心肺蘇生とAEDの習得を目指し、傷病者の「社会復帰」をキーワードに「救命の連鎖」が途切れることのない社会を目指します。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	日本ライフセービング協会の「BLS資格」取得を目指します。				
授業概要	心肺蘇生法はじめとする応急手当に対する正しい理解、各種応急手当の実施要領について実施していく。				
授 業 計 画 表		授業内容			授業内容
	1	ガイダンス		19	心停止の分類と心室細動という不整脈(2)
	2	救命の連鎖(1)		20	心停止の分類と心室細動という不整脈(3)
	3	救命の連鎖(2)		21	心室細動の治療とAEDの必要性(1)
	4	日本の実状(1)		22	心室細動の治療とAEDの必要性(2)
	5	日本の実状(2)		23	心室細動の治療とAEDの必要性(3)
	6	呼吸・循環のしくみ(1)		24	心肺蘇生の実施手順(1)
	7	呼吸・循環のしくみ(2)		25	心肺蘇生の実施手順(2)
	8	呼吸・循環のしくみ(3)		26	心肺蘇生の実施手順(3)
	9	血液の成分と役割(1)		27	気道異物挿入除去(1)
	10	血液の成分と役割(2)		28	気道異物挿入除去(2)
	11	血液の成分と役割(3)		29	気道異物挿入除去(3)
	12	心肺蘇生の理論(1)		30	溺水事故での心肺蘇生(1)
	13	心肺蘇生の理論(2)		31	溺水事故での心肺蘇生(2)
	14	心肺蘇生の理論(3)		32	溺水事故での心肺蘇生(3)
	15	胸骨圧迫の重要性(1)		33	実技テスト
	16	胸骨圧迫の重要性(2)		34	学科テスト
	17	胸骨圧迫の重要性(3)		35	振り返り
	18	心停止の分類と心室細動という不整脈(1)		36	まとめ
成績割合	テスト		30%	学習FB方法	前期・後期 成績表の送付
	学習態度・出席率		50%		
	レポート		20%	成績評価	出席率80%以上 S:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格
	合計		100%		
P/R/A/G割合	P≪課題解決型学習≫20 R≪実働実践型学習≫40 A≪主体的参加型学習≫30 G≪海外体感型学習≫10				
講師プロフィール	公益財団法人 日本ライフセービング協会指導員 日本赤十字社 指導員				

シラバス

科目名		スイミング指導Ⅰ		担 当 者 名		加藤 健志	
学 科		スポーツビジネス科 スポーツマネジメントコース		授業方法		実習	
認定単位 開講学年		2単位 1学年	開 講 期 必・選	選択		授 業 時 間 数	72時間
授業目的		水泳種目に於いて、健康維持増進として適切な指導ができる知識を得る					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)		豊富な知識を得て、積極的に活動できる優秀な指導者を養成し、世界で活躍できる競技スポーツ選手から心身の健康増進できる優秀な指導者の育成を目的として行う。					
授業概要		①プールサイドでのドライランドトレーニング(動きづくり)を行ってから、入水し実践を行う。 ②知識・理論に関しては、グループワークを含んだ座学を行う。					
授 業 計 画 表		授 業 内 容			授 業 内 容		
	1	オリエンテーション1		19	技術トレーニングのねらい		
	2	オリエンテーション2		20	技術トレーニングのねらい		
	3	オリエンテーション3		21	技術トレーニングのねらい		
	4	トレーニング理論		22	技術トレーニングの課題		
	5	トレーニング理論		23	技術トレーニングの課題		
	6	トレーニング理論		24	技術トレーニングの課題		
	7	水泳の体カトレーニング法		25	技術トレーニングの課題		
	8	水泳の体カトレーニング法		26	技術トレーニングの実践		
	9	水泳の体カトレーニング法		27	技術トレーニングの実践		
	10	水泳の体カトレーニング法		28	技術トレーニングの実践		
	11	水泳の体カトレーニング法		29	技術トレーニングの実践		
	12	水泳のメンタルトレーニング		30	水泳競技基礎・ルール		
	13	水泳のメンタルトレーニング		31	水泳競技基礎・ルール		
	14	水泳のメンタルトレーニング		32	後期実技試験 対策		
	15	水泳のメンタルトレーニング		33	後期実技試験 100m個人メドレー		
	16	テスト 対策		34	確認テスト・まとめ1		
	17	泳力テスト		35	確認テスト・まとめ2		
	18	テストの振り返り		36	確認テスト・まとめ3		
成績割合		テスト	30	学習FB方法	前期・後期 成績表送付		
		学習態度・出席率	30				
		レポート	40	成績評価	出席率80%以上 S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格		
		合計	100%				
P/R/A/G割合		P≪課題解決型学習≫20% R≪実働実践型学習≫40% A≪主体的参加型学習≫20% G≪海外体感型学習≫20%					
講師プロフィール		JOC競泳オリンピック強化コーチ/日本水泳連盟 競泳強化コーチ 日本の水泳界を牽引されている講師が担当している。					

シラバス

科目名		機能解剖学		担 当 者 名		町田 秀樹	
学 科		スポーツビジネス科 スポーツマネジメントコース		授 業 方 法		講義	
認定単位 開講学年		2単位 1学年	開 講 期 必・選	選択		授 業 時 間 数	36時間
授業目的		運動の指導者として必要な知識を得る。					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)		骨や筋肉の名称を覚えるとともに、関節の動きや筋肉の特徴を知ること、運動や健康の指導の基礎を築く。また、自分で正しく学び続けることができる基礎を築く。					
授業概要		解剖学の基礎					
授 業 計 画 表		授 業 内 容				授 業 内 容	
	1	機能解剖学の導入			19	脳・神経系の導入	
	2	骨・関節の種類と動き			20	神経組織	
	3	骨格の名称①/頭蓋骨			21	神経筋接合部	
	4	骨の名称②/脊柱			22	シナプスと神経伝達物質	
	5	骨の名称③/腕・脚・手・足など			23	交感神経と副交感神経	
	6	筋肉について導入			24	脳神経系	
	7	筋組織・筋肉の形状と特徴			25	大脳・間脳	
	8	骨格筋の微細構造			26	脳幹・小脳・脊髄	
	9	骨格筋の名称①/前面			27	髄膜	
	10	骨格筋の名称②/前面・後面			28	上行伝導路	
	11	骨格筋の名称③/後面			29	下行伝導路	
	12	骨格筋の名称④/肩のローテーターカフ			30	脊髄反射	
	13	小さな骨・骨格筋の名称			31	脊髄神経系支配領域について	
	14	骨格筋・起始停止			32	伸張性反射について	
	15	骨格筋の収縮と関節の動き			33	復習	
	16	復習			34	復習・まとめ	
	17	復習・まとめ			35	確認テスト	
	18	確認テスト			36	前期・後期の総合まとめ	
成績割合		テスト		70%		学習FB方法	前期・後期 成績表送付
		学習態度・出席率		30%			
		レポート				成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89点 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格
		合計		100%			
P/R/A/G割合		P<<課題解決型学習>>20 R<<実働実践型学習>>70 A<<主体的参加型学習>>10 G<<海外体感型学習>>0					
講師プロフィール		2002年より整体業の店を開業しています。ほとんどの痛みは1度の施術でとるという評判があります。著書に「できる人はなぜ、そこまで姿勢にこだわるのか」が翔泳社から2015年3月に出版されています。					

シラバス

科目名		マッサージ・ストレッチングⅠ		担 当 者 名		町田 秀樹	
学 科		スポーツビジネス科 スポーツマネジメントコース		授 業 方 法		実習	
認定単位 開講学年		1単位 1学年	開 講 期 必・選	選択		授 業 時 間 数	36時間
授業目的		安全を第一に考えたストレッチングや運動指導ができるようにする。また、マッサージを通して体の構造を感じることで、体のより深い理解につなげる。					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)		安全な運動指導を行うためにストレッチングの基礎知識と関節の的確な動きを理解する。また、マッサージなど人の体を触ることの責任や怖さの理解を深める。その責任は運動やスポーツの指導にも共通する。					
授業概要		実際にマッサージなどを実施することで、本来の体の動きや特性の理解を深める。					
授 業 計 画 表		授 業 内 容				授 業 内 容	
	1	ストレッチング導入			19	バイオメカニクス導入	
	2	ストレッチングの種類・意味について			20	てこの原理 第一種テコから第三種テコ	
	3	ストレッチングの基本的知識/筋紡錘と腱紡錘における運動ニューロンと感覚ニューロンについて①			21	てこの原理 関節と運動の説明。	
	4	ストレッチングの基本的知識/筋紡錘と腱紡錘における運動ニューロンと感覚ニューロンについて②			22	解剖学的テコ トルクなど	
	5	ストレッチの基本的知識/ストレッチングの基本的知識/筋紡錘と腱紡錘における運動ニューロンと感覚ニューロンについて③			23	解剖学的テコ 作用の角度	
	6	ストレッチの基礎知識/セルフストレッチの説明。拮抗筋や相反性神経支配の説明。			24	運動の法則と身体の動き	
	7	ストレッチの基本的知識/パートナーストレッチについてここではPNFについて。			25	筋と骨・多関節運動と単関節運動	
	8	ストレッチの基本的知識/ストレッチの効果			26	筋の弾性要素と弾性エネルギー	
	9	ストレッチの基礎知識/全般を簡単にふりかえり			27	着地衝撃とその緩和法	
	10	関節の可動域と動きの名称の確認			28	パワーの発揮とエネルギーの伝達	
	11	筋肉の起始・停止を意識したストレッチについて			29	運動と流体力	
	12	拮抗筋を利用したストレッチ。動きの制限の必要性。大胸筋・広背筋を例に			30	基本的動きの分析 座る・歩く・走る	
	13	ケガ予防とストレッチングとマッサージ			31	スポーツの体の動きを考える	
	14	確実な関節の動かし方をする			32	安全な体の使い方考える	
	15	ストレッチングは解剖学的事実が基本であることを確認する			33	復習	
	16	復習			34	復習	
	17	復習・まとめ			35	確認テスト	
	18	確認テスト			36	前期・後期の総合まとめ	
成績割合		テスト		60%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
		学習態度・出席率		40%			
		レポート			成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89点 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格	
		合計		100%			
P/R/A/G割合		P≪課題解決型学習≫20% R≪実働実践型学習≫50% A≪主体的参加型学習≫30% G≪海外体感型学習≫					
講師プロフィール		2002年より整体業の店を開業しています。ほとんどの痛みは1度の施術でとるという評判があります。著書に「できる人はなぜ、そこまで姿勢にこだわるのか」が翔泳社から2015年3月に出版されています。					

シラバス

科目名		テーピングⅠ		担 当 者 名		高橋 聖	
学 科		スポーツビジネス科 スポーツインストラクターコース		授 業 方 法		実習	
認定単位 開講学年		1単位 1学年	開 講 期 必・選	選択		授 業 時 間 数	36時間
授業目的		テーピングの専門的知識を身に付けた人材になること。					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)		テーピングの基本を学び、実施することが可能になること、また実際にスポーツ現場を仮定とし、条件に合わせて応用的なテーピングが実施することが可能になる。					
授業概要		初めに身体構造及び関節について、テーピングの基本を講義にて学ぶ。その後各部位のテーピングについて講義と実技を合わせながら行う。また各部位のテーピングでは、関節構造・怪我発生機序・損傷部位・状態の評価方法・基本的及び応用的テーピングの流れで実施する。					
授 業 計 画 表		授 業 内 容			授 業 内 容		
	1	オリエンテーション グループ編成		19	応用テーピングについて(講義)(1)		
	2	オリエンテーション グループ編成		20	応用テーピングについて(講義)(2)		
	3	運動器の解剖と機能について(1)		21	今までのまとめ復習(1)		
	4	運動器の解剖と機能について(2)		22	今までのまとめ復習(2)		
	5	テーピングについて(1)		23	テーピングの基本(実技)(1)		
	6	テーピングについて(2)		24	テーピングの基本(実技)(2)		
	7	テーピングの基本(講義)(1)		25	テーピングについて(実技)(1) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む		
	8	テーピングの基本(講義)(2)		26	テーピングについて(実技)(2) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む		
	9	足関節テーピングについて(講義)(1)		27	テーピングについて(実技)(3) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む		
	10	足関節テーピングについて(講義)(2)		28	テーピングについて(実技)(4) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む		
	11	膝関節テーピングについて(講義)(1)		29	テーピングについて(実技)(5) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む		
	12	膝関節テーピングについて(講義)(2)		30	テーピングについて(実技)(6) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む		
	13	肩関節テーピングについて(講義)(1)		31	筆記試験		
	14	肩関節テーピングについて(講義)(2)		32	テーピング復習・練習(1)		
	15	肘関節テーピングについて(講義)(1)		33	テーピング復習・練習(2)		
	16	肘関節テーピングについて(講義)(2)		34	実技試験(1)		
	17	手関節テーピングについて(講義)(1)		35	実技試験(2)		
	18	手関節テーピングについて(講義)(2)		36	まとめ		
成績割合		テスト	30%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付		
		学習態度・出席率	60%				
		レポート	10%	成績評価	S90～100点 A80～89点 B70～79点 C60～69点 D59点以下(不合格)		
		合計	100%				
P/R/A/G割合		P<課題解決型学習>40% R<実働実践型学習>20% A<主体的参加型学習>40% G<海外体感型学習>0%					
講師プロフィール		柔道整復師・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーとしてスポーツ現場や整骨院などで、サッカー・野球・空手・バレー・プロソフトボール・プロ格闘家・テニス・ゴルフ・卓球・バレエ・フィギュアスケートなど幅広い競技で、テーピングを始め、トレーニングやストレッチ・治療のサポートをしています。					

シラバス

科目名		機能解剖学		担 当 者 名		町田 秀樹	
学 科		スポーツビジネス科 サッカーエキスパートコース		授 業 方 法		講義	
認定単位 開講学年		2単位 1学年	開 講 期 必・選	選択		授 業 時 間 数	36時間
授業目的		運動の指導者として必要な知識を得る。					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)		骨や筋肉の名称を覚えるとともに、関節の動きや筋肉の特徴を知ること、運動や健康の指導の基礎を築く。また、自分で正しく学び続けることができる基礎を築く。					
授業概要		解剖学の基礎					
授 業 計 画 表		授 業 内 容				授 業 内 容	
	1	機能解剖学の導入			19	脳・神経系の導入	
	2	骨・関節の種類と動き			20	神経組織	
	3	骨格の名称①/頭蓋骨			21	神経筋接合部	
	4	骨の名称②/脊柱			22	シナプスと神経伝達物質	
	5	骨の名称③/腕・脚・手・足など			23	交感神経と副交感神経	
	6	筋肉について導入			24	脳神経系	
	7	筋組織・筋肉の形状と特徴			25	大脳・間脳	
	8	骨格筋の微細構造			26	脳幹・小脳・脊髄	
	9	骨格筋の名称①/前面			27	髄膜	
	10	骨格筋の名称②/前面・後面			28	上行伝導路	
	11	骨格筋の名称③/後面			29	下行伝導路	
	12	骨格筋の名称④/肩のローテーターカフ			30	脊髄反射	
	13	小さな骨・骨格筋の名称			31	脊髄神経系支配領域について	
	14	骨格筋・起始停止			32	伸張性反射について	
	15	骨格筋の収縮と関節の動き			33	復習	
	16	復習			34	復習・まとめ	
	17	復習・まとめ			35	確認テスト	
	18	確認テスト			36	前期・後期の総合まとめ	
成績割合		テスト		70%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
		学習態度・出席率		30%			
		レポート			成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89点 B70~79点 C 60~69点 D59点以下は不合格	
		合計		100%			
P/R/A/G割合		P≪課題解決型学習≫20 R≪実働実践型学習≫70 A≪主体的参加型学習≫10 G≪海外体感型学習≫0					
講師プロフィール		2002年より整体業の店を開業しています。ほとんどの痛みは1度の施術でとるという評判があります。著書に「できる人はなぜ、そこまで姿勢にこだわるのか」が翔泳社から2015年3月に出版されています。					

シラバス

科目名	救急処置法Ⅰ		担 当 者 名	石井 英一	
学 科	スポーツビジネス科 サッカーエキスパートコース		授業方法	実習	
認定単位 開講学年	1単位 1学年	開 講 期 必・選	選択	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	質の高い心肺蘇生とAEDの習得を目指し、傷病者の「社会復帰」をキーワードに「救命の連鎖」が途切れることのない社会を目指します。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	日本ライフセービング協会の「BLS資格」取得を目指します。				
授業概要	心肺蘇生法はじめとする応急手当に対する正しい理解、各種応急手当の実施要領について実施していく。				
授 業 計 画 表		授業内容			授業内容
	1	ガイダンス		19	心停止の分類と心室細動という不整脈(2)
	2	救命の連鎖(1)		20	心停止の分類と心室細動という不整脈(3)
	3	救命の連鎖(2)		21	心室細動の治療とAEDの必要性(1)
	4	日本の実状(1)		22	心室細動の治療とAEDの必要性(2)
	5	日本の実状(2)		23	心室細動の治療とAEDの必要性(3)
	6	呼吸・循環のしくみ(1)		24	心肺蘇生の実施手順(1)
	7	呼吸・循環のしくみ(2)		25	心肺蘇生の実施手順(2)
	8	呼吸・循環のしくみ(3)		26	心肺蘇生の実施手順(3)
	9	血液の成分と役割(1)		27	気道異物挿入除去(1)
	10	血液の成分と役割(2)		28	気道異物挿入除去(2)
	11	血液の成分と役割(3)		29	気道異物挿入除去(3)
	12	心肺蘇生の理論(1)		30	溺水事故での心肺蘇生(1)
	13	心肺蘇生の理論(2)		31	溺水事故での心肺蘇生(2)
	14	心肺蘇生の理論(3)		32	溺水事故での心肺蘇生(3)
	15	胸骨圧迫の重要性(1)		33	実技テスト
	16	胸骨圧迫の重要性(2)		34	学科テスト
	17	胸骨圧迫の重要性(3)		35	振り返り
	18	心停止の分類と心室細動という不整脈(1)		36	まとめ
成績割合	テスト		30%	学習FB方法	前期・後期 成績表の送付
	学習態度・出席率		50%		
	レポート		20%	成績評価	出席率80%以上 S:90～100点 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格
	合計		100%		
P/R/A/G割合	P≪課題解決型学習≫20 R≪実働実践型学習≫40 A≪主体的参加型学習≫30 G≪海外体感型学習≫10				
講師プロフィール	公益財団法人 日本ライフセービング協会指導員 日本赤十字社 指導員				

シラバス

科目名		スイミング指導Ⅰ		担 当 者 名		加藤 健志	
学 科		スポーツビジネス科 サッカーエキスパートコース		授業方法		実習	
認定単位 開講学年		2単位 1学年	開 講 期 必・選	選択		授 業 時 間 数	72時間
授業目的		水泳種目に於いて、健康維持増進として適切な指導ができる知識を得る					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)		豊富な知識を得て、積極的に活動できる優秀な指導者を養成し、世界で活躍できる競技スポーツ選手から心身の健康増進できる優秀な指導者の育成を目的として行う。					
授業概要		①プールサイドでのドライランドトレーニング(動きづくり)を行ってから、入水し実践を行う。 ②知識・理論に関しては、グループワークを含んだ座学を行う。					
授 業 計 画 表		授 業 内 容			授 業 内 容		
	1	オリエンテーション1		19	技術トレーニングのねらい		
	2	オリエンテーション2		20	技術トレーニングのねらい		
	3	オリエンテーション3		21	技術トレーニングのねらい		
	4	トレーニング理論		22	技術トレーニングの課題		
	5	トレーニング理論		23	技術トレーニングの課題		
	6	トレーニング理論		24	技術トレーニングの課題		
	7	水泳の体カトレーニング法		25	技術トレーニングの課題		
	8	水泳の体カトレーニング法		26	技術トレーニングの実践		
	9	水泳の体カトレーニング法		27	技術トレーニングの実践		
	10	水泳の体カトレーニング法		28	技術トレーニングの実践		
	11	水泳の体カトレーニング法		29	技術トレーニングの実践		
	12	水泳のメンタルトレーニング		30	水泳競技基礎・ルール		
	13	水泳のメンタルトレーニング		31	水泳競技基礎・ルール		
	14	水泳のメンタルトレーニング		32	後期実技試験 対策		
	15	水泳のメンタルトレーニング		33	後期実技試験 100m個人メドレー		
	16	テスト 対策		34	確認テスト・まとめ1		
	17	泳力テスト		35	確認テスト・まとめ2		
	18	テストの振り返り		36	確認テスト・まとめ3		
成績割合		テスト	30	学習FB方法	前期・後期 成績表送付		
		学習態度・出席率	30				
		レポート	40	成績評価	出席率80%以上 S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格		
		合計	100%				
P/R/A/G割合		P≪課題解決型学習≫20% R≪実働実践型学習≫40% A≪主体的参加型学習≫20% G≪海外体感型学習≫20%					
講師プロフィール		JOC競泳オリンピック強化コーチ/日本水泳連盟 競泳強化コーチ 日本の水泳界を牽引されている講師が担当している。					

シラバス

科目名		テーピングⅠ		担 当 者 名		高橋 聖	
学 科		スポーツビジネス科 サッカーエキスパートコース		授 業 方 法		実習	
認定単位 開講学年		1単位 1学年	開 講 期 必・選	選択		授 業 時 間 数	36時間
授業目的		テーピングの専門的知識を身に付けた人材になること。					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)		テーピングの基本を学び、実施することが可能になること、また実際にスポーツ現場を仮定とし、条件に合わせて応用的なテーピングが実施することが可能になる。					
授業概要		初めに身体構造及び関節について、テーピングの基本を講義にて学ぶ。その後各部位のテーピングについて講義と実技を合わせながら行う。また各部位のテーピングでは、関節構造・怪我発生機序・損傷部位・状態の評価方法・基本的及び応用的テーピングの流れで実施する。					
授 業 計 画 表		授 業 内 容			授 業 内 容		
	1	オリエンテーション グループ編成		19	応用テーピングについて(講義)(1)		
	2	オリエンテーション グループ編成		20	応用テーピングについて(講義)(2)		
	3	運動器の解剖と機能について(1)		21	今までのまとめ復習(1)		
	4	運動器の解剖と機能について(2)		22	今までのまとめ復習(2)		
	5	テーピングについて(1)		23	テーピングの基本(実技)(1)		
	6	テーピングについて(2)		24	テーピングの基本(実技)(2)		
	7	テーピングの基本(講義)(1)		25	テーピングについて(実技)(1) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む		
	8	テーピングの基本(講義)(2)		26	テーピングについて(実技)(2) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む		
	9	足関節テーピングについて(講義)(1)		27	テーピングについて(実技)(3) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む		
	10	足関節テーピングについて(講義)(2)		28	テーピングについて(実技)(4) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む		
	11	膝関節テーピングについて(講義)(1)		29	テーピングについて(実技)(5) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む		
	12	膝関節テーピングについて(講義)(2)		30	テーピングについて(実技)(6) 足関節から始め、技術取得者から次の課題へ進む		
	13	肩関節テーピングについて(講義)(1)		31	筆記試験		
	14	肩関節テーピングについて(講義)(2)		32	テーピング復習・練習(1)		
	15	肘関節テーピングについて(講義)(1)		33	テーピング復習・練習(2)		
	16	肘関節テーピングについて(講義)(2)		34	実技試験(1)		
	17	手関節テーピングについて(講義)(1)		35	実技試験(2)		
	18	手関節テーピングについて(講義)(2)		36	まとめ		
成績割合		テスト	30%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付		
		学習態度・出席率	60%				
		レポート	10%	成績評価	S90～100点 A80～89点 B70～79点 C60～69点 D59点以下(不合格)		
		合計	100%				
P/R/A/G割合		P<課題解決型学習>≧40% R<実働実践型学習>≧20% A<主体的参加型学習>≧40% G<海外体感型学習>≧0%					
講師プロフィール		柔道整復師・日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーとしてスポーツ現場や整骨院などで、サッカー・野球・空手・バレー・プロソフトボール・プロ格闘家・テニス・ゴルフ・卓球・バレエ・フィギュアスケートなど幅広い競技で、テーピングを始め、トレーニングやストレッチ・治療のサポートをしています。					

シラバス

科目名		コンピュータ実習 I		担 当 者 名		榎村 麻里子	
学 科		スポーツビジネス科大学コース		授 業 方 法		講義	
認定単位 開講学年		4単位 1学年	開 講 期 必・選	選択		授 業 時 間 数	72時間
授業目的		情報リテラシー知識・ビジネスで必要とされるPCスキルを身に付け、積極的な活用が可能になる					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)		パソコンの基礎知識、インターネットでの情報検索方法、Microsoft Office基本操作を学び、適切な情報活用ができるようになる。 ビジネスで必須のキータッチの習得、ビジネス文書・企画書・請求書などの書類作成スキルを目標とする。					
授業概要		パソコン実習を通じて、キーボード操作を身に付ける。 Word: 基本的なビジネス文書の形式を覚え、現場で必要とされる実践的なファイルを作成する。 Excel: 簡単な表作成、数式、関数を学び、注文書・請求書などの基本書類を作成する。 PowerPoint: 他科目の発表で活用できるプレゼンテーションスキルを身に付ける。					
授 業 計 画 表		授 業 内 容				授 業 内 容	
	1	教室環境の確認 ガイダンス			19	基礎関数、表示形式(2)	
	2	Windowsの基本操作			20	基礎関数、表示形式(3)	
	3	今後のスケジュール確認			21	グラフの作成(1)	
	4	文字の入力、アプリケーションの知識			22	グラフの作成(2)	
	5	Wordの概要、文章の入力と編集			23	グラフの作成(3)	
	6	ビジネス文書の作成・編集(1)			24	グラフの作成(4)	
	7	ビジネス文書の作成・編集(2)拡張書式			25	データベースの基礎(1)	
	8	表の作成(1)			26	データベースの基礎(2)	
	9	表の作成(2)			27	総合問題	
	10	図形、グラフィックの活用(1)			28	確認テスト	
	11	図形、グラフィックの活用(2)			29	スライドの作成、編集	
	12	地図作成			30	PowerPointの概要、スライドの作成	
	13	ポスター作成			31	スライドの作成	
	14	前期テスト			32	スライドの作成、編集	
	15	テスト返却 まとめ			33	スライドの作成、編集	
	16	Excelの概要、四則演算			34	アニメーション、画面切り替え	
	17	四則演算、絶対参照			35	スライドショーの実行	
	18	基礎関数、表示形式(1)			36	まとめ	
成績割合		テスト		40%	学習FB方法	課題提出による評価のフィードバック	
		学習態度・出席率		30%			
		レポート		課題提出:30%	成績評価	出席率80%以上 S:90～100点、A:80～89、B:70～79点、 C:60～69点、D:59点以下は不合格	
		合計		100%			
P/R/A/G割合		P≪課題解決型学習≫50% R≪実働実践型学習≫30% A≪主体的参加型学習≫20% G≪海外体感型学習≫0%					
講師プロフィール		コンピュータ会社で勤務した経験を持ち、大学・専門学校・企業研修でパソコン実習、情報系の資格講座を中心としての講師経験も長い。実務現場で必要とされるパソコンスキルを身に付けられるような授業を展開する。					

シラバス

科目名		スイミング指導 I		担 当 者 名		加藤 健志	
学 科		スポーツビジネス科大学コース		授 業 方 法		実習	
認定単位 開講学年		2単位 1学年	開 講 期 必・選	選択		授 業 時 間 数	72時間
授業目的		水泳種目に於いて、健康維持増進として適切な指導ができる知識を得る					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)		豊富な知識を得て、積極的に活動できる優秀な指導者を養成し、世界で活躍できる競技スポーツ選手から心身の健康増進できる優秀な指導者の育成を目的として行う。					
授業概要		①プールサイドでのドライランドトレーニング(動きづくり)を行ってから、入水し実践を行う。 ②知識・理論に関しては、グループワークを含んだ座学を行う。					
授 業 計 画 表		授 業 内 容			授 業 内 容		
	1	オリエンテーション1		19	技術トレーニングのねらい		
	2	オリエンテーション2		20	技術トレーニングのねらい		
	3	オリエンテーション3		21	技術トレーニングのねらい		
	4	トレーニング理論		22	技術トレーニングの課題		
	5	トレーニング理論		23	技術トレーニングの課題		
	6	トレーニング理論		24	技術トレーニングの課題		
	7	水泳の体カトレーニング法		25	技術トレーニングの課題		
	8	水泳の体カトレーニング法		26	技術トレーニングの実践		
	9	水泳の体カトレーニング法		27	技術トレーニングの実践		
	10	水泳の体カトレーニング法		28	技術トレーニングの実践		
	11	水泳の体カトレーニング法		29	技術トレーニングの実践		
	12	水泳のメンタルトレーニング		30	水泳競技基礎・ルール		
	13	水泳のメンタルトレーニング		31	水泳競技基礎・ルール		
	14	水泳のメンタルトレーニング		32	後期実技試験 対策		
	15	水泳のメンタルトレーニング		33	後期実技試験 100m個人メドレー		
	16	テスト 対策		34	確認テスト・まとめ1		
	17	泳力テスト		35	確認テスト・まとめ2		
	18	テストの振り返り		36	確認テスト・まとめ3		
成績割合		テスト	30	学習FB方法	前期・後期 成績表送付		
		学習態度・出席率	30				
		レポート	40	成績評価	出席率80%以上 S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格		
		合計	100%				
P/R/A/G割合		P≪課題解決型学習≫20% R≪実働実践型学習≫40% A≪主体的参加型学習≫20% G≪海外体感型学習≫20%					
講師プロフィール		JOC競泳オリンピック強化コーチ/日本水泳連盟 競泳強化コーチ 日本の水泳界を牽引されている講師が担当している。					

シラバス

科目名		機能解剖学		担 当 者 名		町田 秀樹	
学 科		スポーツビジネス科大学コース		授 業 方 法		講義	
認定単位 開講学年		2単位 1学年	開 講 期 必・選	選択		授 業 時 間 数	36時間
授業目的		運動の指導者として必要な知識を得る。					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)		骨や筋肉の名称を覚えるとともに、関節の動きや筋肉の特徴を知ること、運動や健康の指導の基礎を築く。また、自分で正しく学び続けることができる基礎を築く。					
授業概要		解剖学の基礎					
授 業 計 画 表		授 業 内 容				授 業 内 容	
	1	機能解剖学の導入			19	脳・神経系の導入	
	2	骨・関節の種類と動き			20	神経組織	
	3	骨格の名称①/頭蓋骨			21	神経筋接合部	
	4	骨の名称②/脊柱			22	シナプスと神経伝達物質	
	5	骨の名称③/腕・脚・手・足など			23	交感神経と副交感神経	
	6	筋肉について導入			24	脳神経系	
	7	筋組織・筋肉の形状と特徴			25	大脳・間脳	
	8	骨格筋の微細構造			26	脳幹・小脳・脊髄	
	9	骨格筋の名称①/前面			27	髄膜	
	10	骨格筋の名称②/前面・後面			28	上行伝導路	
	11	骨格筋の名称③/後面			29	下行伝導路	
	12	骨格筋の名称④/肩のローテーターカフ			30	脊髄反射	
	13	小さな骨・骨格筋の名称			31	脊髄神経系支配領域について	
	14	骨格筋・起始停止			32	伸張性反射について	
	15	骨格筋の収縮と関節の動き			33	復習	
	16	復習			34	復習・まとめ	
	17	復習・まとめ			35	確認テスト	
	18	確認テスト			36	前期・後期の総合まとめ	
成績割合		テスト		70%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
		学習態度・出席率		30%			
		レポート			成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89点 B70~79点 C 60~69点 D59点以下は不合格	
		合計		100%			
P/R/A/G割合		P<<課題解決型学習>>20 R<<実働実践型学習>>70 A<<主体的参加型学習>>10 G<<海外体感型学習>>0					
講師プロフィール		2002年より整体業の店を開業しています。ほとんどの痛みは1度の施術でとるという評判があります。著書に「できる人はなぜ、そこまで姿勢にこだわるのか」が翔泳社から2015年3月に出版されています。					